

右京長根遺跡

— 第5次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 —

2025.10

株式会社ハシモトホーム
盛岡市教育委員会

例 言

- 1 本書は、盛岡市緑が丘一丁目55番1外地内に所在する右京長根遺跡第5次調査の発掘調査報告書である。右京長根遺跡第5次調査に係る野外調査は、令和6年10月15日から11月22日まで実施し、調査面積は約1,056㎡である。
- 2 本調査は、宅地造成工事に伴い、記録保存を目的とした緊急発掘調査であり、事業主の株式会社ハシモトホーム 代表取締役 橋本吉徳氏と盛岡市との間で締結された埋蔵文化財発掘調査業務委託契約に基づき、盛岡市教育委員会 遺跡の学び館が屋外調査及び出土資料整理並びに報告書編集を実施した。野外調査、整理作業、報告書刊行等にかかる費用は、事業主体者である株式会社ハシモトホームが支出した。
- 3 第5次調査は、神原雄一郎、鈴木俊輝、田老茜理が担当し、本書の編集・執筆は鈴木俊輝が、遺跡の学び館埋蔵文化財担当職員と協議の上、担当した。なお、野外調査及び出土資料整理には、以下の作業員が従事した（五十音順）。
秋元理恵、及川京子、川村久美子、千葉ふさ子、土川恵里香、畠山ルミ、細田幸美、村上美香
- 4 遺構の平面位置については世界測地系を用い、平面直角座標系X系を座標変換した調査座標で表示した。なお、方位は座標北を表している。
調査座標原点 X - 29,700.000m Y + 26,400.000m = R X ± 0.000 R Y ± 0.000
- 5 高さは標高値をそのまま使用している。
- 6 土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使いわけた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（2013小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業㈱発行）を参考にした。
- 7 遺構の名称及び記号は次のとおりである。土坑：RD
- 8 本書中の地図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1「盛岡」の地形図を使用し、5万分の1に縮小・編集したものを掲載している。
- 9 空中写真撮影及びオルソデータ作成は、株式会社タックエンジニアリングに委託した。
- 10 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管してある。
- 11 本調査の一部については発掘調査成果報告会や速報展等で報告・発表しているものがあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

目 次

I 遺跡の概要	III 総括
1 遺跡の環境・・・・・・・・・・・・・1	1 調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・14
II 調査内容	
1 これまでの調査・・・・・・・・・・・・・2	写 真 図 版
2 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・2	
3 調査の概要・・・・・・・・・・・・・7	報 告 書 抄 録
4 確認された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・7	

《遺構の表現について》

遺構の挿図中、説明する当該遺構については実線で表現し、オーバーハング及び推定線は破線で表現した。

《遺物の表現について》

- 1 縄文土器の実測図・拓本の縮小率は1/3とし、器種・器形・出土層位等で配列した。
- 2 挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

I 遺跡の概要

1 遺跡の環境

岩手県盛岡市は、県土のほぼ中央に位置している。東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山（標高2,038m）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。

遺跡の位置 右京長根遺跡は、JR盛岡駅から北東に約3.4kmの緑が丘一丁目地内に所在する（第1図）。遺跡の範囲は東西約220m、南北約230mを測り、標高は158m～164m前後である。遺跡の現況は、本調査区を含む周辺は畑地であるが、その他は住宅地である。

地形・地質 右京長根遺跡は、北上川東岸の四十四田丘陵裾に発達する段丘上に立地している。段丘は四十四田丘陵より流れる沢の開析により、いくつもの舌状地形に分かれており、全体的に起伏の多い地形となっている。当遺跡を含む周辺一帯は、洪民火山灰層、分れ火山灰層など洪積～沖積世の火山灰で覆われている。本遺跡では南西部が最も標高が高く、北東にかけて緩やかに下がり続ける地形となっている。

周辺の遺跡 右京長根遺跡をはじめ、四十四田丘陵には数多くの遺跡が立地している。本遺跡の南には高松神社裏遺跡（縄文時代前期～中期、平安時代11世紀頃）、北には、7世紀の土師器甕、衝角付冑、環状鋳製品、琥珀原石などの副葬品が出土した上田蝦夷森古墳群や黒石野平遺跡（縄文時代）、西黒石野遺跡（縄文時代早期～晩期、平安時代）など、縄文時代から平安時代にかけての遺跡が分布している。また、近世の奥州道中の街道筋にあたり、上田一里塚（県指定史跡）が築かれている。



第1図 右京長根遺跡の位置（1：50,000）

Ⅱ 調査内容

1 これまでの調査

調査の経過 右京長根遺跡は、平成10年度の県警宿舍建設に伴う第1次調査以降、宅地造成や個人住宅建築に伴って、令和7年度までに今次調査を含め7次にわたり試掘・本調査を実施しており、縄文時代以降の陥し穴状土坑などが確認されている（第1表）。

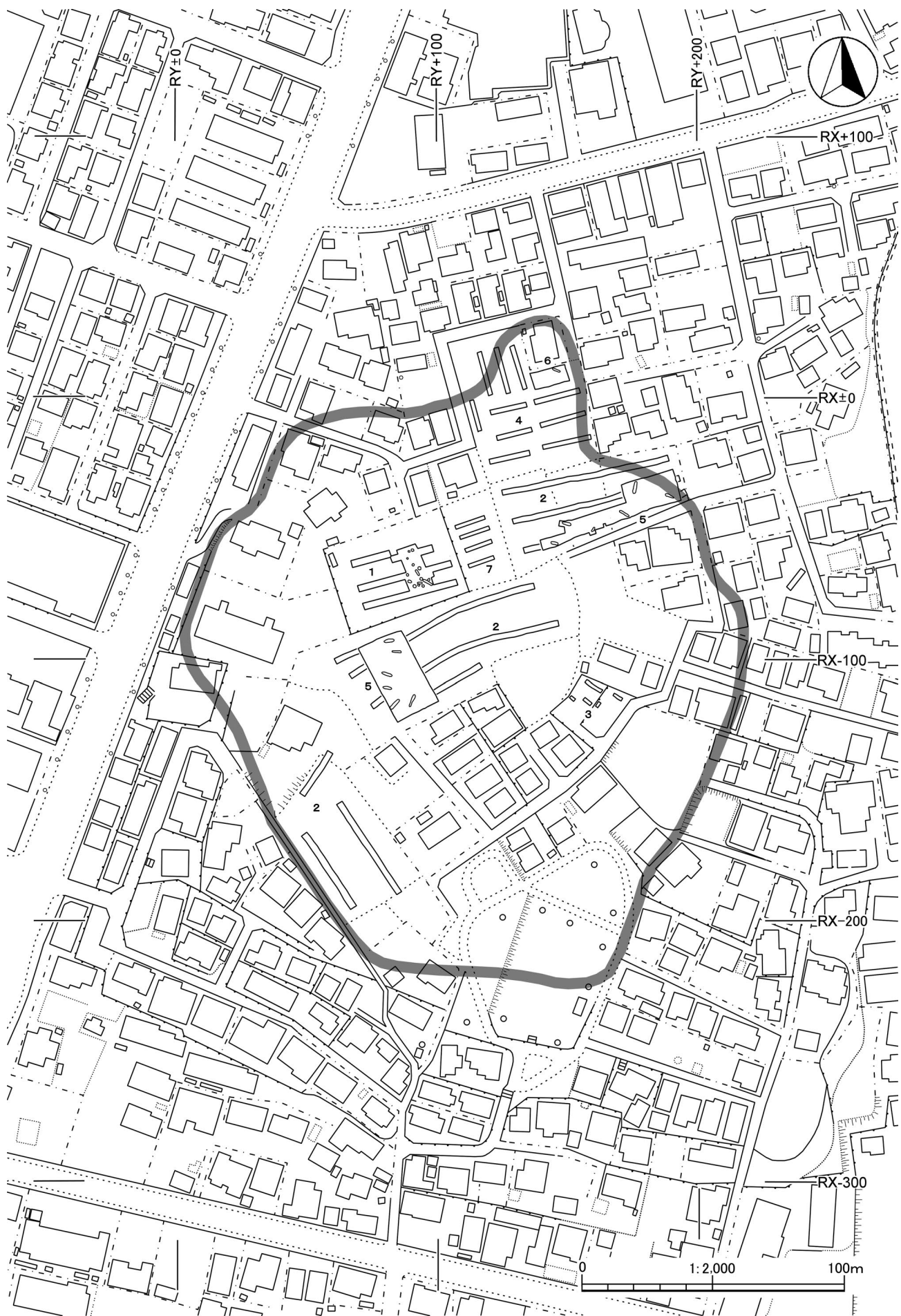
第1表 右京長根遺跡調査一覧

次数	所在地	調査原因	面積（㎡）	期間	検出遺構・遺物
1試掘	緑が丘一丁目26-2	県警宿舍建設	308	1998.08.03 ～08.05	土坑4、ピット12
2試掘	緑が丘一丁目59-1外	宅地造成	1,011	2010.03.02 ～03.04	縄文土坑8
3試掘	緑が丘一丁目64-1、64-2	建売住宅建築	9	2017.12.15	遺構・遺物なし
4試掘	緑が丘一丁目26-1外	宅地造成	242	2021.03.25	縄文土坑1
5	緑が丘一丁目55-1外	宅地造成	1,056	2024.10.15 ～11.22	縄文土坑12
6	緑が丘一丁目26-1外	宅地造成	103	2025.05.20 ～05.29、06.17	縄文土坑1
7試掘	緑が丘一丁目26-7外	個人住宅建築	48	2025.05.20	遺構・遺物なし

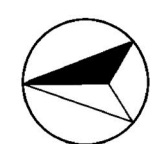
2 調査に至る経緯

発掘届 当該地において、事業主体者である株式会社ハシモトホームから、宅地造成に係る事前協議があり、包蔵地に該当することから、株式会社ハシモトホームから盛岡市教育委員会に令和6年9月6日付けで発掘届が提出された。当該地は、第2次調査で遺構が確認されており、遺構・遺物を地下保存して宅地造成工事を行うことは不可能であると判断し、同年9月13日付けで岩手県教育委員会から株式会社ハシモトホームに対し、工事着手前に発掘調査の実施が必要である旨が通知された。

協定・契約 令和6年10月2日付けで発掘調査依頼書の提出があり、同年10月3日付けで事業者の株式会社ハシモトホーム 代表取締役 橋本吉徳氏と、当教育委員会の間で「埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結した。これに基づき、令和6年10月7日付けで令和6年度分の業務委託契約を締結し、令和6年10月15日に野外調査に着手し、同年11月22日まで野外調査を行った。事業面積6,101㎡のうち、本調査面積は1,056㎡である。第2次試掘調査結果と今次調査結果をあわせて、地権者用地を除く事業予定地全面を調査終了とした。



第2図 右京長根遺跡全体図



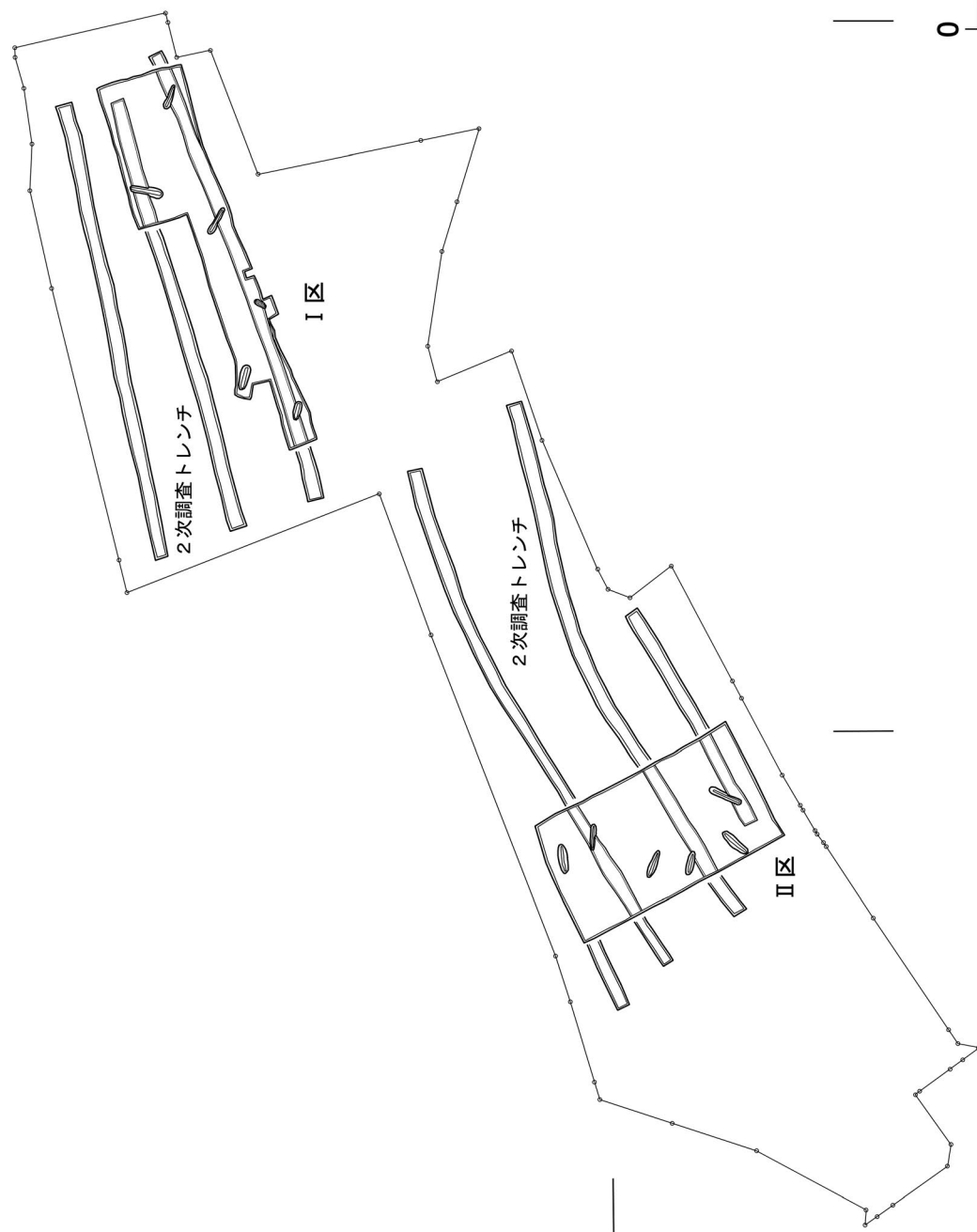
— RX±0
(X-29,700)

— RX-100
(X-29,800)

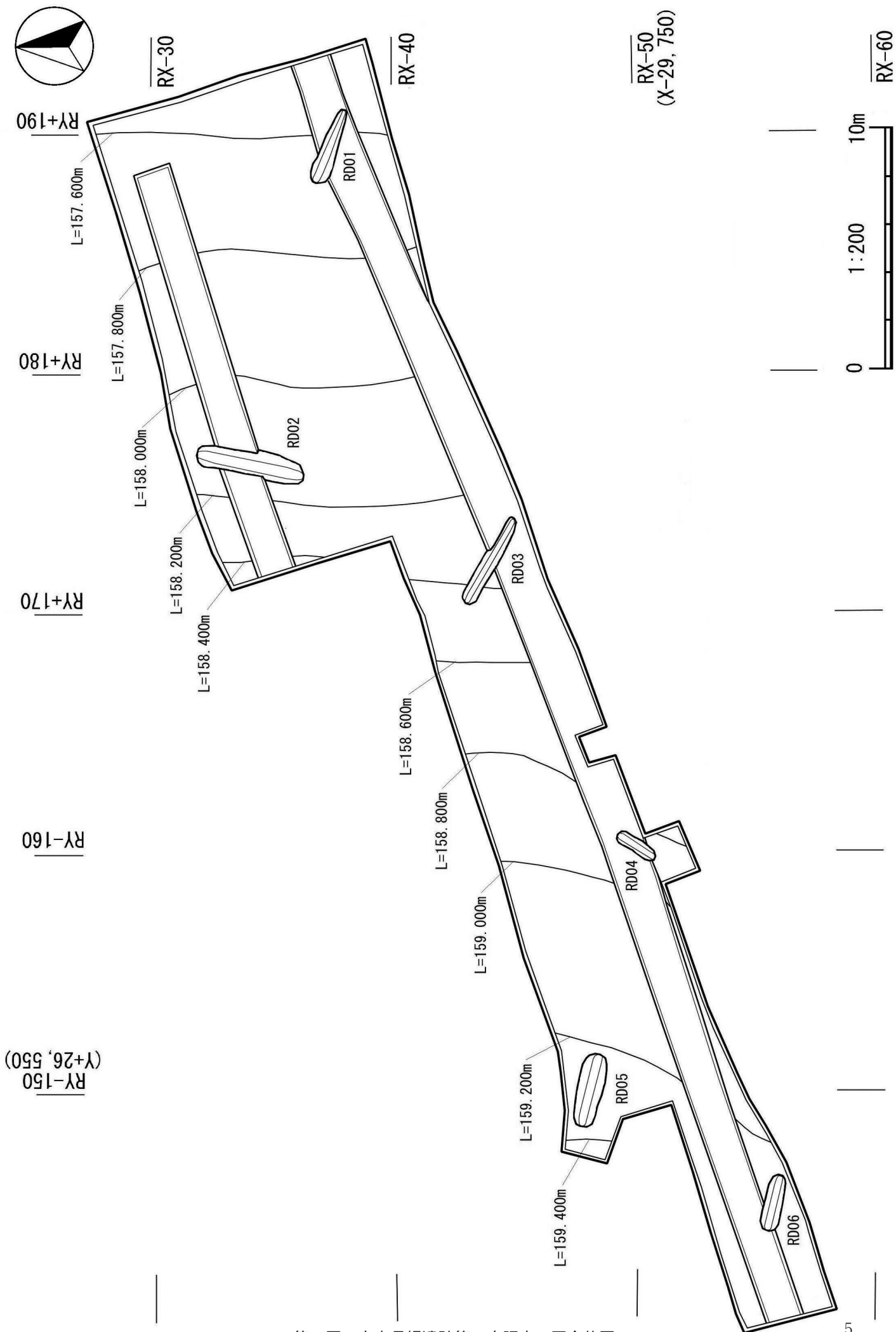
— RY+200
(Y+26,600)

— RY+100
(Y+26,500)

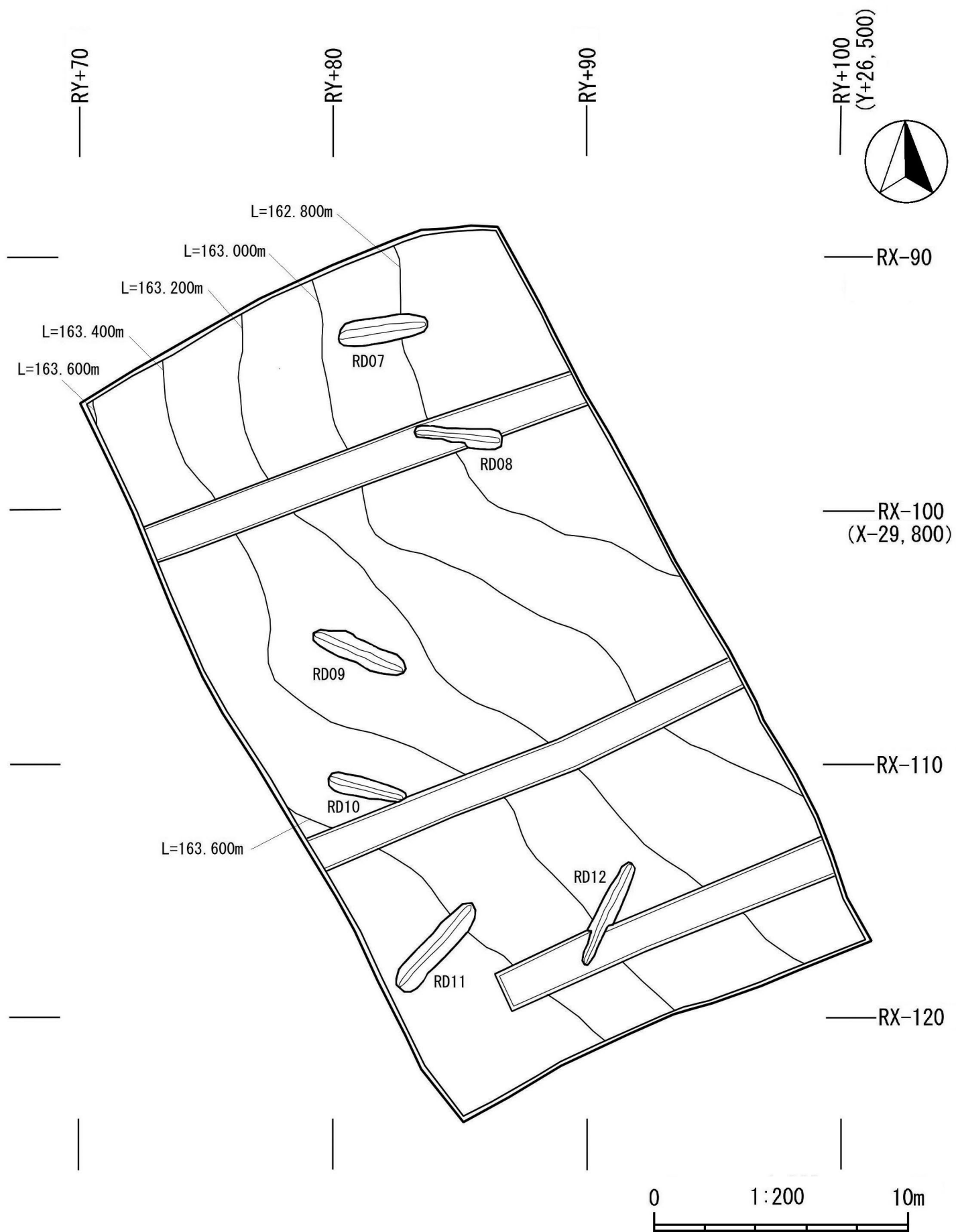
0 1:1,000 50m



第3図 右京長根遺跡第5次調査全体図



第4図 右京長根遺跡第5次調査Ⅰ区全体図



第5図 右京長根遺跡第5次調査Ⅱ区全体図

3 調査の概要

位 置 第5次調査区は、右京長根遺跡の中央に位置している。北に隣接する平成10年度の第1次調査では縄文時代の陥し穴状土坑やピットなどが確認されている。

平成21年度の試掘調査（第2次）で遺構が検出された範囲を重機で掘り下げ、本調査を実施した。申請地は傾斜地のため、調査区内は高低差があり、検出面の標高はⅠ区が157.6mから159.4m前後、Ⅱ区が162.8mから163.6m前後である。

基本層序 調査区内で確認された基本層序はⅠ～Ⅵ層に大別される。Ⅰ層は表土、Ⅱ層は暗褐色の旧耕作土である。Ⅲ層は暗褐色火山灰層で、Ⅲ層上面が遺構検出面である。Ⅳ層は褐色火山灰層、Ⅴ層は赤褐色～青灰色粗粒軽石層、Ⅵ層は褐色～明黄褐色粘土層で遺構壁面や底面で確認している。

検出状況 重機によりⅠ層及びⅡ層を除去したⅢ層上面で遺構検出を行った。検出面までの深さは場所によって異なるが、現地表面から約20cm～40cm程である。

検出遺構 検出された遺構は、縄文時代以降の陥し穴状土坑12基（RD001～012）である（第3～5図）。

4 確認された遺構と遺物

RD01土坑（第6図）

位 置	Ⅰ区東部	平 面 形	溝状	長軸方向	N70°W
規 模	長軸上端3.14m・下端2.73m、短軸上端0.86m・下端0.12m、深さ0.53m				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～C層で、A層は2層に細分される（第2表）				
壁の状態	上部は緩やかに外傾し、下部は直壁である				
底の状態	ほぼ平坦である	出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降

RD02土坑（第6図）

位 置	Ⅰ区北部	平 面 形	溝状	長軸方向	N11°E
規 模	長軸上端4.53m・下端4.82m、短軸上端1.20m・下端0.17m、深さ0.77m以上				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～C層で、A・B層は2層に細分される（第2表）				
壁の状態	外傾して立ち上がる	底の状態	ほぼ平坦である		
出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降		

RD03土坑（第6図）

位 置	Ⅰ区中央部	平 面 形	溝状	長軸方向	N60°W
規 模	長軸上端3.81m・下端3.87m、短軸上端0.71m・下端0.15m、深さ0.64m以上				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～C層で、C層は2層に細分される（第2表）				
壁の状態	上部は緩やかに外傾し、下部は直壁である				
底の状態	ほぼ平坦である	出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降

R D 0 4 土坑 (第6図)

位 置 I 区中央部 平 面 形 長楕円～溝状 長軸方向 N28° E
 規 模 長軸上端1.74m・下端1.82m、短軸上端0.50m・下端0.27m、深さ0.66m
 重複関係 なし 堀 込 面 削平 検 出 面 Ⅲ層上面
 埋 土 A層～C層で、A層は2層に細分される(第2表)
 壁の状態 外傾して立ち上がる 底の状態 ほぼ平坦である
 出土遺物 なし 時 期 縄文時代以降

R D 0 5 土坑 (第7図)

位 置 I 区西部 平 面 形 長楕円～溝状 長軸方向 N79° W
 規 模 長軸上端3.12m・下端3.04m、短軸上端1.13m・下端0.18m、深さ1.35m
 重複関係 なし 堀 込 面 削平 検 出 面 Ⅲ層上面
 埋 土 A層～E層で、A層は2層に細分される(第2表)
 壁の状態 上部は緩やかに外傾し、下部は直壁である
 底の状態 ほぼ平坦である 出土遺物 なし 時 期 縄文時代以降

R D 0 6 土坑 (第7図)

位 置 I 区西部 平 面 形 長楕円～溝状 長軸方向 N80° W
 規 模 長軸上端2.30m・下端2.70m、短軸上端0.90m・下端0.18m、深さ1.18m
 重複関係 なし 堀 込 面 削平 検 出 面 Ⅲ層上面
 埋 土 A層～C層で、A層は2層に細分される(第2表)
 壁の状態 外傾して立ち上がる 底の状態 ほぼ平坦である
 出土遺物 なし 時 期 縄文時代以降

R D 0 7 土坑 (第7図)

位 置 II 区北部 平 面 形 長楕円～溝状 長軸方向 N85° E
 規 模 長軸上端3.72m・下端3.25m、短軸上端1.24m・下端0.12m、深さ1.39m
 重複関係 なし 堀 込 面 削平 検 出 面 Ⅲ層上面
 埋 土 A層～C層で、A・B層は2層に細分される(第2表)
 壁の状態 上部は外傾して立ち上がり、下部底面付近は直壁である 底の状態 ほぼ平坦である
 出土遺物 なし 時 期 縄文時代以降

R D 0 8 土坑 (第7図)

位 置 II 区北部 平 面 形 溝状 長軸方向 N88° W
 規 模 長軸上端3.26m・下端3.01m、短軸上端0.71m・下端0.16m、深さ1.15m
 重複関係 なし 堀 込 面 削平 検 出 面 Ⅲ層上面
 埋 土 A層～C層で、A層は2層に細分される(第2表)
 壁の状態 上部は外傾して立ち上がり、下部は直壁に近い
 底の状態 ほぼ平坦である 出土遺物 なし 時 期 縄文時代以降

RD09土坑（第8図）

位 置	Ⅱ区中央部	平 面 形	溝状	長軸方向	N70° W
規 模	長軸上端3.69m・下端3.33m、短軸上端0.75m・下端0.10m、深さ1.36m				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～C層で、A層は4層に細分される（第2表）				
壁の状態	上部は緩やかに外傾し、下部底面付近は直壁である				
底の状態	ほぼ平坦である	出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降

RD10土坑（第8図）

位 置	Ⅱ区中央部	平 面 形	溝状	長軸方向	N79° W
規 模	長軸上端3.05m・下端2.70m、短軸上端0.80m・下端0.08m、深さ1.22m				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～C層で、A・B層は2層に細分される（第2表）				
壁の状態	上部は外傾して立ち上がり、下部は直壁に近い				
底の状態	ほぼ平坦である	出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降

RD11土坑（第8図）

位 置	Ⅱ区南部	平 面 形	溝状	長軸方向	N40° E
規 模	長軸上端4.50m・下端3.76m、短軸上端1.14m・下端0.08m、深さ1.42m				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～B層で、A層は3層に細分される（第2表）				
壁の状態	上部は外傾して立ち上がり、下部は直壁に近い				
底の状態	ほぼ平坦である	出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降

RD12土坑（第8図）

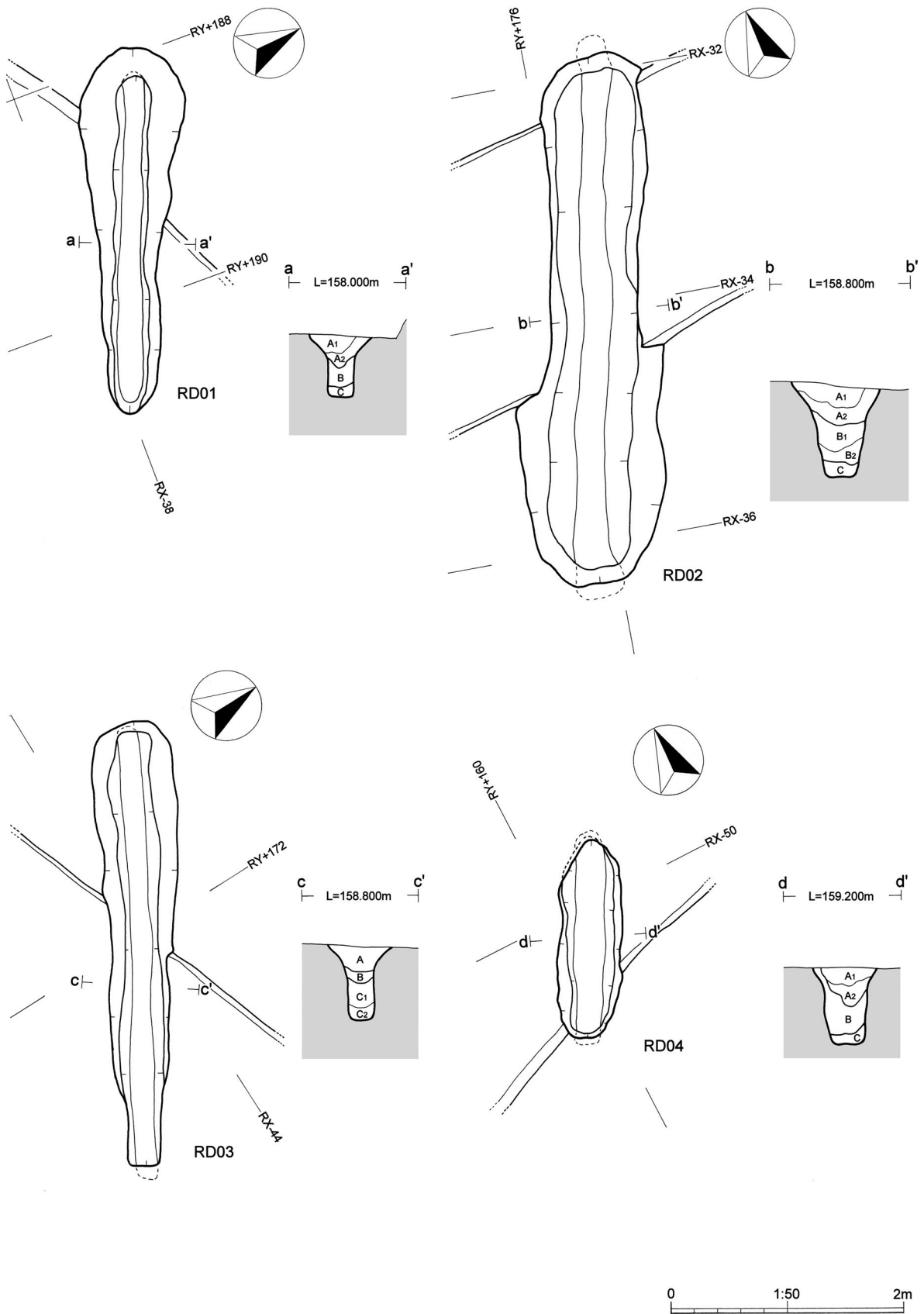
位 置	Ⅱ区南部	平 面 形	溝状	長軸方向	N21° E
規 模	長軸上端4.47m・下端3.93m、短軸上端0.75m・下端0.15m、深さ1.48m				
重複関係	なし	堀 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
埋 土	A層～C層で、B層は2層に細分される（第2表）				
壁の状態	上部は緩やかに外傾し、下部は直壁である				
底の状態	ほぼ平坦である	出土遺物	なし	時 期	縄文時代以降

遺構外出土遺物（第9図）

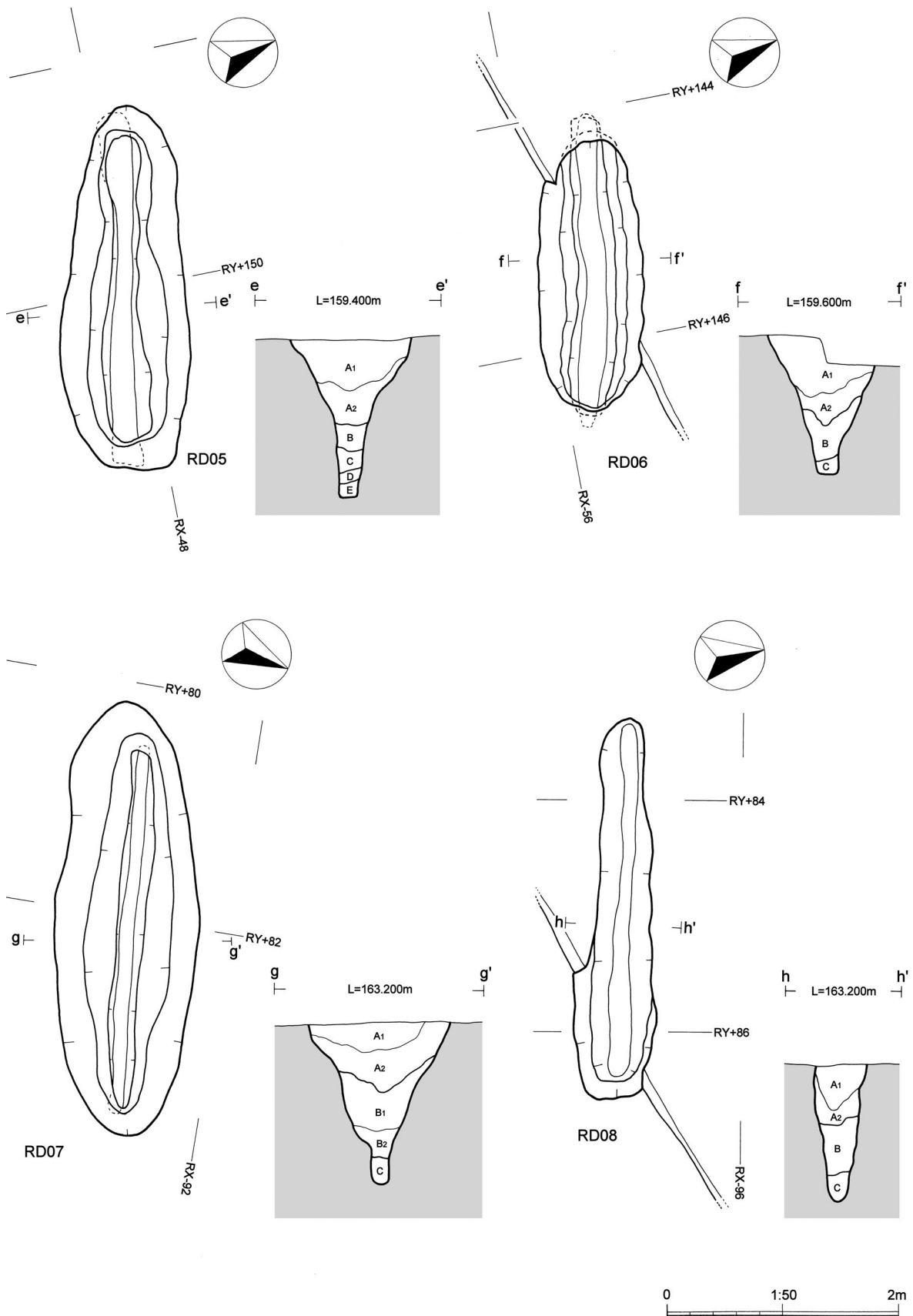
Ⅱ区東部（RX-102・RY+92：B3-V2）のⅡb層中及びⅠ区試掘トレンチ埋土からそれぞれ遺物が出土している。1は縄文土器深鉢の口縁部、2～4は縄文土器深鉢の体部である。1～4は胎土や地紋の特徴から同一個体とみられ、縄文時代後期のものと考えられる。5は縄文土器深鉢の口縁部で、縄文時代中期のものと考えられる。その他図示していないが、1～4と同一個体とみられる縄文土器片9点、古代の土師器片1点、頁岩製の剥片1点などが出土している。

第2表 土層観察表

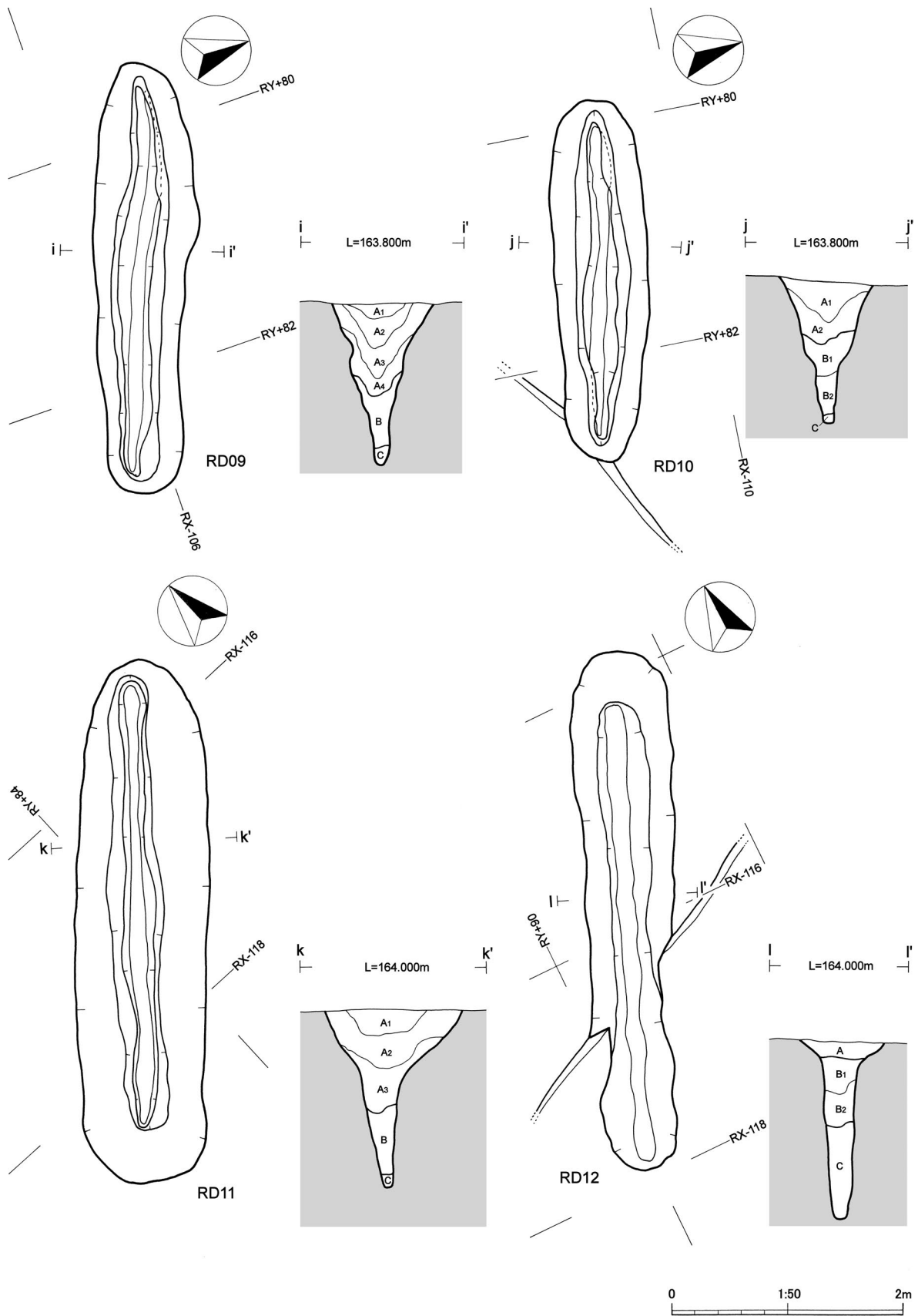
遺構名	層名	主要土		含有土				軟硬	密度	その他含有物等
		土性	土色(JIS)	土性	土色(JIS)	状態	%			
RD01	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	1	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
	B	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	赤褐色火山灰微量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
RD02	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	10	中	中	
	B 1	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒～塊	10	中	中	赤褐色火山灰少量～多量含む
	B 2	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒	3	中	中～疎	赤褐色火山灰少量～多量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒～塊	5	中	中	赤褐色火山灰微量含む
RD03	A	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
	B	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	15	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	C 1	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	赤褐色火山灰微量含む
	C 2	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	
RD04	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粉～塊	10	中	中	
	B	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒～塊	20	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
RD05	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	10	中	中	赤褐色火山灰微量～少量含む
	B	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒～塊	3	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	C	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	7	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	D	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR2/3	粒～塊	3	中	中	赤褐色火山灰少量含む
				SiCL	10YR3/2	粒	2			
	E	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
RD06	A 1	SiCL	10YR2/2	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	赤褐色火山灰微量含む
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	7	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	B	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒～塊	5	中	中～疎	赤褐色火山灰少量～多量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	
RD07	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	
	B 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	大塊	50	中	中～疎	赤褐色火山灰多量含む
	B 2	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒	10	中	中～疎	赤褐色火山灰少量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	疎	赤褐色火山灰少量含む
RD08	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	10	中	中	
	B	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	20	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	C	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	
				SiL	10YR5/6	粒	2			
RD09	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR3/3	粒	5	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR3/3	粒	3	中	中	
	A 3	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	
	A 4	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	7	中	中	
	B	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒	20	中	中	赤褐色火山灰少量～多量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	7	中	中	赤褐色火山灰少量含む
				SiL	10YR5/6	粒	3			
RD10	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	赤褐色火山灰微量含む
	B 1	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒～塊	7	中	中	赤褐色火山灰少量～多量含む
	B 2	SiCL	10YR5/6	SiCL	10YR3/2	粒	5	中	中	赤褐色火山灰少量～多量含む
				SiCL	10YR2/3	粒	5			
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	赤褐色火山灰少量含む
				SiL	10YR5/6	粒	2			
RD11	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒～塊	5	中	中	
	A 3	SiCL	10YR3/2	SiL	10YR5/6	塊	20	中	中	赤褐色火山灰少量～多量含む
	B	SiCL	10YR5/6	SiL	10YR3/2	粒～塊	3	中	中	赤褐色火山灰少量～多量含む
				SiCL	10YR5/6	粒	3			
RD12	A 1	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR3/3	粒	2	中	中	
	A 2	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	3	中	中	赤褐色火山灰微量含む
	B	SiCL	10YR3/2	SiCL	10YR5/6	粒	5	中	中	赤褐色火山灰少量含む
	C	SiCL	10YR2/3	SiCL	10YR5/6	粒	2	中	中	



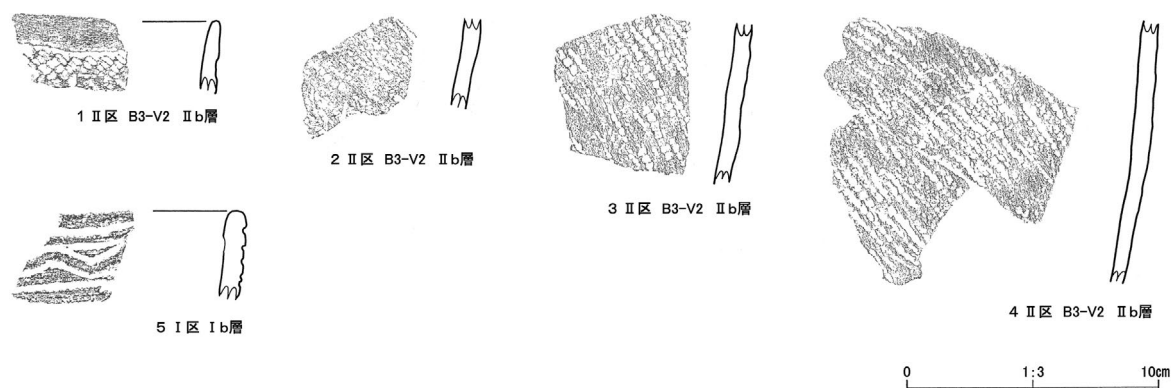
第6図 RD01~RD04土坑



第7図 RD05~RD08土坑



第8図 RD09~RD12土坑



第9図 出土遺物

Ⅲ 総括

1 調査のまとめ

今回の調査で確認した遺構は、溝状または長楕円状の陥し穴状土坑12基（RD01～RD12）である。土坑内からの出土遺物は確認されていないため時代の特定には至らなかったが、これまでの市内の発掘調査事例から縄文時代中期～晩期（約5,000～3,000年前）に属するものと考えられる。市内では、同じく溝状の陥し穴状土坑の埋土に、十和田a火山灰（西暦915年降下）が堆積しているものも確認されていることから、平安時代頃までは同形状の陥し穴状土坑が使用されていた可能性が指摘されているが、本調査では、埋土に十和田a火山灰などは確認されなかった。また、本調査で出土した土器が縄文時代後期のものと考えられることから、その前後の年代の可能性が考えられる。

市内の調査例から、溝状の陥し穴状土坑は獣道を狙って同形状・同一軸方向のものが複数まとまって作られるようである。そのことを考慮すると、I区のRD07～RD10の4基が同時期、RD11・RD12の2基が同時期と考えられる。一方、II区で確認した土坑間には、I区ほど明確なまとまりがみられない。軸方向では、RD01・RD03の2基、RD02・RD04の2基、RD05・RD06の2基がそれぞれ同時期と考えられるが、規模や形状でいえばRD04はRD05・RD06に近いと考えられる。

本調査で確認した遺構には、規模の大小や平面形状の違いの他に、底面形状に違いがみられた。II区のは、底面がU字状で、長軸下端の先端部が丸みを帯びているのに対し、I区のは底面が平坦で、長軸下端の先端部が角ばっているものが多い傾向にある。これらの違いには掘削作業を行った作業者の属する集団の傾向や個性による違いだけでなく、ある程度の時期差により掘削に使用した道具が変化したことによる違いの可能性も考えられる。I区で確認した土坑間には、前述のような平面・底面形状の違いはあまり見られないため、時期による形状の変化があるとすれば、II区で確認された2時期の土坑群間にはさほど大きな時期差は無い可能性が考えられる。一方、I区で確認した土坑間には平面形状・底面形状の違いがみられるため、やや離れた時期差が考えられる。しかし、前述のとおり各土坑からの出土遺物もないため、各遺構の時期や、時期差による形状の変化とその前後関係については明確にすることは出来なかったため、周辺の調査事例の増加を待つて再考する必要があるだろう。



右京長根遺跡第5次調査区遠景（南東から）



第5次調査Ⅰ区全景（南から）



第5次調査Ⅱ区全景（南西から）



RD01土坑全景（南東から）



RD02土坑全景（北から）

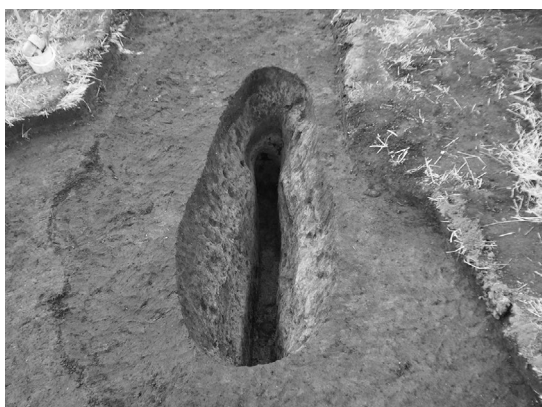
第2図版



RD03土坑全景（南東から）



RD04土坑全景（北東から）



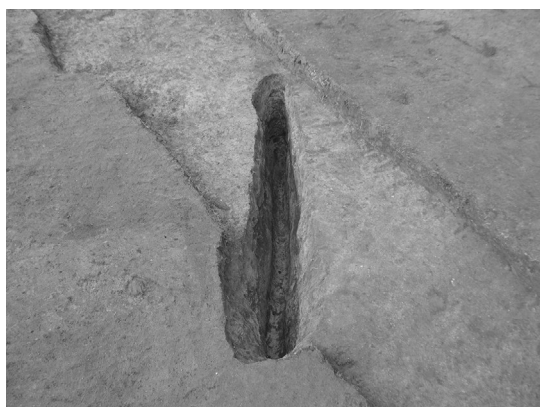
RD05土坑全景（東から）



RD06土坑全景（西から）



RD07土坑全景（東から）



RD08土坑全景（東から）



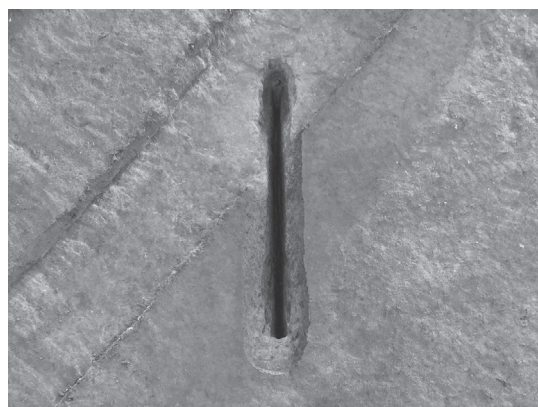
RD09土坑全景（東から）



RD10土坑全景（東から）



RD11土坑全景（南西から）



RD12土坑全景（北東から）



遺物出土状況



作業状況

報告書抄録

ふりがな	うきょうながねいせき							
書名	右京長根遺跡							
副書名	第5次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書							
編著者名	鈴木俊輝							
編集機関	盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605							
発行機関	株式会社ハシモトホーム 盛岡市教育委員会							
発行年月日	2025年10月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
うきょうながねいせき 右京長根遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 みどりがおか 緑が丘一丁目 55-1外	03201	LE06-0218	39° 43′ 52″	141° 08′ 33″	2024.10.15 ～ 2024.11.22	1,056	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
右京長根遺跡 第5次	散布地	縄文時代		土坑 12基		縄文土器ほか		

右京長根遺跡

―第5次調査 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書―

2025年10月24日 発行

編集 盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605
e-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

発行 株式会社ハシモトホーム・盛岡市教育委員会
印刷 株式会社 阿部印刷
〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町2-2
TEL 019-624-2242 FAX 019-624-0177